

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.62 2012年10月13日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

## 第15回定期総会を開催しました

——「会報」の充実と活用を、など活発な討論が

事務局 山木 健介

9月16日(日)にスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で、文化の仲間の第15回定期総会を開催しました。記念講演と交流会も含めて、文化の仲間の会員と劇団員が延べ32名参加してくれました。

文化の仲間の「会報」が好評で、今年の総会でも話題になりましたが、今年の総会でも劇団員から「会報が充実してきている。公演の劇評などもあるので、5～6部持って読んでくれそうな人に渡している」「会報の合冊版は川崎の歴史になっている」「劇評で、これでいいの? という文章があると、期待があるからだと思うのでうれしい」などの意見がありました。また初めて総会に参加した会員からは「会員が100人位いると思ったが、50人前後と少ない。公演で200円引きとか“うまみ”がもうちょっとほしいかなと思う」という発言もありました。

今年の劇団公演の「臨界幻想」が好評で、横浜公演など他のところでもやってくれという再演の要望が出ていますが、まだどうなるかわからないということです。しかし、来年の夏に予定している平和の企画は、「原発」でやった方が良いのではないかと、との意見も出ました。

また、来年の1月14日(月・祝日)に開催予定の第7回「お正月お楽しみ会」(地域の子どもたちを集まってもらって劇団稽古場で開催する催し物)の出演者を公募したところ、総会参加者からも出演の名乗りが挙がりました。今年の第6回お正月お楽しみ会は30名を超える子どもが集まってくれましたが、来年はもっとたくさんの子どもたちが劇団の稽古場に来てくれるように企画していきます。

総会の最後に役員改選を行いました。全員留任でした。

代表世話人は、二村柊子・高橋明義・藤崎秀子の3名。事務局は、山木健介・須田セツ子・西川日女子の3名。その他の世話人は、小野寺晃・佐藤友吉・塩田儀夫・渡辺そのこの4名。合計10名の役員体制で1年間やっています。

総会の後に、須根芳太郎さんの「原子力と脱原発」という記念講演をしていただき、その後、須根さんの参加も得て交流会を行いました。



世話人会からの議案の提案など



会員と劇団員の参加で

# 「餅は餅屋」だなどと 言ってもいられない

二村 柊子

第15回総会の記念講演は須根芳太郎さんの「原子力と脱原発」でした。去年のあの日以来、あちこちで学習会や討論会が開かれ、また、様々な出版物が店頭で並べられました。

ほぼ半世紀、元素記号すらどこかにしまい、忘れていくかという私にとって——知ること、行動すること——なんてスローガンを目にすると、ため息が出てしまいそうでした。ともかく発電についてだって、火力と水力とどちらが先かすらあいまいな日常を重ねてきたのですから。でも少しずつ私にだって原発の実態が見えてきました。「餅は餅屋」だなどと言ってもいられなくなりました。

去年の総会の記念講演、塩川祥子さんの「電気の話」、そして今年の「原子力」の話。その前の……とたどっていくと、講師は、それぞれの専門の話が進むにしたがい、聴き手にはだんだん難しくなってくるのですが、話には熱が入り、スピーディーになり、生き生きとしてくるのです。

須根さんのお話も、専門的な部分に入ると普段そのような内容に接していない私たちにとってはとても難解でした。原子の構造から核分裂の仕組み、放射線の種類と性質、そして、現在の原発の仕組みと問題点、浜岡原発を例に現在の原発の「安全」神話の作られ方



とその問題点……。しかし、その中で、いろいろな問題提起がありました。

人間の活動に必要な「エネルギー」をどうするのか、現在とは別の原子力利用の道の可能性、暴走しない方式の小規模な原子力発電の可能性、現在原発だけでなく医療などでも使われている放射線・放射性物質との共存の可能性、さらに、「脱原発」への視点のあり方……。

とても難しい問題ばかりですが、私たちも、「専門家」任せにせず、ひとつずつ答えを出していかなければならない問題であると認識しました。その意味からも、須根さんのお話は、これらの問題にこれまでとは別の角度から考える視点を私たちに提供してくれたのではないかと思います。

あふれる情報に振り回されず、観察し、発見する能力を培っていかなければと痛感しました。



私たちは、その専門の分野にたずさわっている人たち——科学者も、政治家も、労働者も、芸術家も——すべてのプロの権利と自由を保障する明日を創らなければならないのではないのでしょうか。そして、高度に発達したその分野にたずさわる人々は“すばらしい人間”であることが望まれているはずです。

「私たちが住む地域に豊かな文化を創り出すために——」（「文化の仲間」会則の前文）

私の重たくなってきていた腰が、持ち上がりました。須根さん本当にありがとうございました。

（文化の仲間世話人）

第20回銀河ホール地域演劇祭に参加して

# 短期決戦・強行軍だったが…客席からの拍手と花束にびっくり

京浜協同劇団 稲垣 美恵子

9月1日、2日と2日間の日程で行われた岩手銀河ホール地域演劇祭には「臨界幻想」を携えて総勢40名の参加で行って参りました。

これまでも「ぼっぼや」、「権兵衛太鼓」での出演や夏のゼミナールの参加など馴染み深いホールです。初めて銀河ホールを拝見したのは、京浜の新稽古場創立公演の「がんとり」の取材で作者の河村光夫さん（地元のぶどう座）のお話をホールの会議室でお聞きし、夜はぶどう座の皆さんと交流したこと、また「ぼっぼや」では、演出の室野さんと朝早くに田舎道を散歩しながら、私の役について語り合い舞台に臨んだことなど、忘れがたい思い出です。



作者、演出家などのトークもありました

そんな懐かしい銀河ホールに三度訪れることができました。今度は新幹線と電車です。北上線は一両で超満員、みんな銀河ホールのお客様かしらと思っていたら、湯田駅に着いた途端、私たちだけ取り残された、電車のお客は温泉行きのようなだった。午後の日差しの中銀河ホールへ向かった。

演劇祭は4時開演、最初は地元シニア劇団「銀河」による「さよならニッポンごきげんよう」上演平均年齢72.5歳、セリフ忘れも隠さず堂々と皆で助け合い元気一杯の一時間半、田舎のおばちゃんはこうあらねばと、明日の上演を控えた私は大いに励まされた。30分の休憩の後、ぶどう座と東演による、A・チエホ



和賀町の銀河ホールなど

フ作、「結婚の申込み」翻案が秋田弁。計算された演技とセリフ回しに引き込まれる。面白かったのは舞台装置、必要なスペースだけ下手寄りに設置され残った空きスペースも生きている。

さて「臨界幻想」、仕込み夜8時開始、スタッフは深夜までの短期決戦、明けて9時より舞台稽古、13時本番の強行軍。開幕前スペース京浜ならお客の声が賑やかなのに、この会場からは人の声がしない。果たして客は入っているのだろうか、でも幕は上がった。途中クスクス笑い声が聞こえ少し安心するもやはり静かだ。私、何か間違っているのではないかしら？ やはり間違えていた、11場でのエプロンが裏返しだった（後の祭り）。客席からの拍手と花束にビックリ！幕は無事に下りたのでした。

この公演につき沢山の方々からご支援を頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



演劇祭舞台のカーテンコール

# 労働者たちの控えめなあたたかい空気につつまれ

安達 元彦

『コンペア野郎に夜はない』(1968年)でぼくは初めて労働者というものに出会ったのでした。

労働者はぼくにとって少し脅えをともなった憧れの的でした。どうしてそうなのか？ いまだによくわかりませんが……。

ぼくの育ったのは大阪のベッドタウン。吹田市千里山と言ひ、昭和初期に他府県からの移住者のために山を切り開いてできた小さな町(だから「千里山」——なんかスゴイ名前)。サラリーマン(ホワイトカラー)の町。商店はあるけど工場はなく、労働者はいない。そこには労働者(現業労働者・肉体労働者、ブルーカラー)を一段低く見る空気が、家庭にも町全体にもありました。漠然としたものだけど、それは感じられるものです。市の中心街には工場がありました。その小学校の講堂で前進座の『レミゼラブル』『ベニスの商人』などを家族で観に行きました。すると公演に先立って演説がある。横田甚太郎という共産党市議、愛称「ヨコジン」、パン屋の親父で結構人気者でした。その人が「芸者が米をク(食)て、労働者がイモをクとるんであります」なんて言う(ちょっと乱暴ですネ)。すると客席から間髪をいれず「そうダァ！」という威勢のいい声が飛ぶ。労働者の声です。場内がちょっと湧き立つ。そういうのは我が町にも家庭にもないものでした。だからよくおぼえているのかもしれない。

ついでに言いますと、ぼくの小学校時代(1946～52年)は、後になってひと世代上の先輩たちからよく聞いた、日本の「束の間の青空」(自由と民主主義の空気が横溢していたという)の時代のようなのです。でもぼく自身は、墨塗り教科書は知らないし、『新しい憲法の話(文部省)』も教わっていません。ただ、5年生くらいのとき映画『原爆の子』を先生に引率されて観に行きました。それと中学にあがってからですが「緑の山河」「原爆許すまじ」は先生から教わりました(ただし、音楽の先生ではなくて社会科の先生)。また「世界民主青年同盟の歌」は夏休みのドリルに載っていて、ぼくは楽譜で知りました。

……で、京浜協同劇団。おおいにドキドキ少しワクワクで、打ち合わせに出かけました。演出の細田寿郎さんは30歳代半ば。顔といい体といい声といい、静かで幅広く悠々。ぼくは自分が10歳代の少年になってしまったような錯覚。「とにかくなにもわからないので、とりあえずみなさんの歌(声)を聴きに行きたい」と申し込むと「労働者は甘い歌が好きだから」という細田さんの答えに「エッ?!」。労働者というものは革命歌ばかりうたっていて歌謡曲なんかはバカにしているという、ぼくの方の思い込みがあったのかも知れません。

初めて訪れたのは、まだ自前の稽古場を建てる前(建設資金募集中)、天井の高い大きな倉庫のような所を借りてのことでした。ひとりひとりうたってもらった歌は覚えていませんが、あまり自信たっぷりの人はいなかったように思います。でも並みいる労働者たちの、控えめなあたたかい空気につつまれた気分はよくおぼえています。かれらにぼくはどのようにうつっていたのか？ 黒沢参吉さん(故人)の、おちょぼ口で諄諄と論ずような静かで力強いもの言いが印象的でした。

実はこの仕事は、以前から劇団の音楽を担当されてきた作曲家浜名政昭さん(故人)の紹介でした。「どうも今度はジャズソングが要るらしいんだよ。ぼくは苦手だから……」と。なぜ引き受けたのか？ 当時ぼくはジャズの「ジャ」の字も知らなかったのです。歌のメロディーだけはなんとか考え、コード(和音)は解らないので赤堀文雄さん(故人)に付けてもらい、日本ジャズメン会議のメンバーに即興で演奏してもらう始末。(トホホッ)

室野定子さんの爆弾娘が舞台ではじけました。



1980年(写真:長坂クニヒロ)

# 和田庸子の新作・「中国撫順戦犯管理所の戦犯と認罪」 「人の証」～ある憲兵の証言～

京浜協同劇団 水野 哲夫

この秋の公演は、昨年の「皇国ノ訓導タチ」、6月の「臨界幻想」に続き、劇団の和田庸子の創作「人の証」～ある憲兵の証言～を上演します。

内容は——1951年シベリア抑留の重労働も終わり帰国と思った約1000名の旧兵士はいきなり中国撫順戦犯管理所に収容され、突然捕虜から戦犯になったのです。

戦犯たちの生活は、新しく生まれ変わった中国の政策で、彼らは日々労働もなく何事も自由な生活を送りますが。

しかし彼たちは、戦争中に中国の人々に甚大な苦しみを与え、人には話せない多くの残虐行為、罪業を抱えていたのです。

話は、収容所6年間の生活で自分の「認罪」(自分の犯した罪をきちんと認める)「坦白」(多くの人に向かって真実を告白する)することになったのか。一人

の憲兵の「認罪」から人間が「鬼から人間に変わる」記録を証言していきます。

帝国軍隊(国家)の野望で火ぶたを切った日中戦争は15年続き、その間に中国の国土を荒廃させ、多くの人民を殺害、拷問、略奪、強姦等塗炭の苦しみを与えたのです。ここの約1000名の元兵士たちは、自ら犯した行為に苦しみ、断腸の思いで「認罪」して人民裁判で無罪で帰国した。その後多くの人それぞれの立場で日中の友好の平和運動に参加しています。

国家の野望で始めたこの日中戦争で、国家は、天皇は、どのような責任ある政策をもつのか。併せて「国家の戦争犯罪」を問いかけるものです。

和田庸子が、猛暑の中でこの重いテーマに果敢に挑んだ作品です。

 京浜協同劇団 第84回公演

## 人の証

### —ある憲兵の証言—

作 和田庸子 演出 藤井康雄

日程 2012年11月30日(金) 昼・夜 / 12月1日(土) 昼・夜 / 2日(日) 昼  
12月7日(金) 昼・夜 / 8日(土) 昼・夜 / 9日(日) 昼

会場 スペース京浜 (京浜協同劇団稽古場)

予約制 限定110席 ●申込み受付中

入場料 前売: 一般 2900円 / 70歳以上 2200円 / 学生 1500円 (当日券は各500円増)

問合せ・申込み 京浜協同劇団 (044-511-4951) keihinkyoudougekidan@nifty.com

ひとが鬼になり  
鬼が人間に戻った  
中国「撫順戦犯管理所」で  
何があったのか?

●横浜地区労・佐藤友吉さんへ感謝と慰労の会

文化の仲間の世話人でもある佐藤友吉さんが横浜地区労働組合協議会（横浜地区労）の専従役員を降りたので、9月28日（金）に横浜・桜木町の「ブリーズベイホテル」で「佐藤友吉さんへ感謝と慰労の会」が行われました。

当初予定した60名を超える76名の参加でなごやかに行われました。劇団の稲垣美恵子さんと文化の仲間の山木の司会で進行し、劇団の護柔一さんが秋田横手万歳で、佐藤友吉さんの生まれから現在までをおもしろおかしく語り、喝采を浴びました。

専従は降りても、労働運動、平和運動、文化活動は、ひきつづき頑張ってもらいたいという参加者全員の思いが現れた感謝の集いでした。（山木）



◎文化の仲間通信◎

◆EIの会 Golden Concert

日程 10月28日（日）午後2時開演  
会場 サントリーホール ブルーローズ（小ホール）  
入場料 4500円（全席自由）  
出演 飯山恵巳子・石原良子・岩渕嘉瑩・須藤さやか・二見忍・山寺圭子／ピアノ 金益研二・佐藤恵・志茂貴子・朝岡真木子  
主な演目 ハンスとグレーテ／別離／夜想曲／わが母の教えたまいし歌／夜のすみれ／落葉松 他  
問合せ EIの会事務局 042-377-8607

◆川崎市民劇場 第311回例会

エイコーン公演 アンナ・カレーニナ  
日程・会場 12月3日（土）・4日（日）すくらむ21  
12月9日（日）幸市民館  
作 トルストイ／脚色・演出 加来英治／出演 栗原小巻・清水紘治・寺田路恵・赤羽秀之・池田勝 他  
人間にとって真の幸福とは、神とは、愛とは……。文豪トルストイが、その芸術、宗教、哲学のすべてを注ぎ込んで完成した不朽の名作！  
申込み・問合せ 溝の口事務所 044-455-7950  
川崎事務所 044-244-7481

今回の中原会場は工事のため「すくらむ21」です。

◆川崎太鼓仲間響創立20周年特別企画

松尾慧 横笛コンサート in 能楽堂  
いのり、つむぐ糸～時を越え、海を越え～  
日程 12月15日（土）午後2時開演  
会場 川崎能楽堂（JR川崎駅徒歩5分）  
入場料 一般2500円 高校生まで1500円  
障がい者 1000円（全席自由）  
出演 松尾慧（横笛演奏）／川崎太鼓仲間響（篠笛・民舞・太鼓ほか）／関口範章（和太鼓・韓国伝統楽器奏者）  
問合せ 080-2043-8175（玉田）

◆年の始めのいちばん星 第20回記念コンサート “風よ ふるさとよ”

日程 2013年1月13日（日）午後3時開演  
会場 エポック中原  
入場料 一般1200円 全席自由  
主な演目 第1部 大西進作品から「水の力美しく」よりほか／第2部 日本民謡 斉太郎節・南部牛追い歌ほか／第3部 みんなで歌おう／第4部 命・平和のステージ 風よふるさとよ・青葉の歌ほか  
指揮 山寺圭子／ピアノ 梅澤文字  
問合せ 照井 044-888-7110

◆川崎市民劇場 第312回例会

前進座公演 夢千代日記  
日程・会場 2月4日（月）・5日（火）エポック中原  
9日（土）幸市民館  
原作 早坂暁／脚本 志村智雄／演出 志村智雄・橋本英治／出演 今村文美・高橋佑一郎 ほか

■文化の仲間ギャラリー■ 小野寺 晃⑧

